

アートな川越

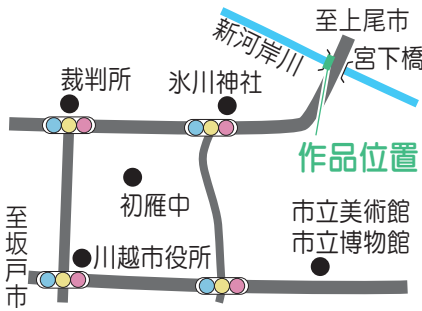
72

さまざまのこと思ひ出す桜哉

松尾芭蕉

古くから多くの歌に詠まれてきた桜は、春らんまんの象徴として、日本人になじみが深い花です。市内でも各所に桜が植えられ、花見を楽しむことができます。

毎年桜の開花時期に合わせて行われる、新河岸川桜まつり。ことしは四月四日(土)に行われます。会場となる北公民館前の下流にある宮下橋で、桜が描かれたレリーフを見つけてください。写真は、昨年四月に撮影した物です。この風景を見ることが出来るのも、もうすぐ。しばらくレリーフを見ていたら、桜の開花が待ち遠しくなってきました。



どんぐり

編集後記

相手に伝わる文章の書き方をテーマにした研修を受講しました。伝わる文章には、自分のメディア力・意見・論拠・目指す結果・根本思想・論点・相手にとっての意味の7つが必要という内容でした。特に重要なのは、根本思想。自分の深層にあるほんとうの思いを知り、書くことが大事だとか。そのためには、考える力を身に付けることが必要だと講師の話。一朝一夕では身に付かない考える力、自分にはそれが足りないことを自覚した研修でした。(T O)



表紙の地図



セイヨウタンポポ



立春を過ぎたとはいえ、まだまだ寒い二月十九日。久下戸の南向きの斜面に、一足早い春の訪れを発見しました。キク科タンポポ属の多年草、セイヨウタンポポです。近づいてみると、すでに綿毛ができています。いつ花が咲いたのでしょうか？ 冬の寒さに負けない、強い生命力には驚かされます。緑の葉に囲まれた綿毛の隣には、ひとときわ華やかな黄色の花。花の少ないこの季節、小さいながらも存在感があります。綿毛を吹いて飛ばしたり、草笛を作ったり……。セイヨウタンポポを見ていたら、懐かしい記憶がよみがえってきました。